

## 徳島市における消費者との意見交換会

日時	2019年11月16日(土)	13:30~17:00
会場	グランドパレス	5階(徳島市)
開催事務局	NACS 西日本支部四国部会	
意見交換会 参加者	: 15名(うち消費者・NACS会員 8名 防災関係者 7名)	
石油連盟	: 1名(中田氏)	
環境委員会	: 2名(村上、大矢野)	

### 【開催地域の特徴】

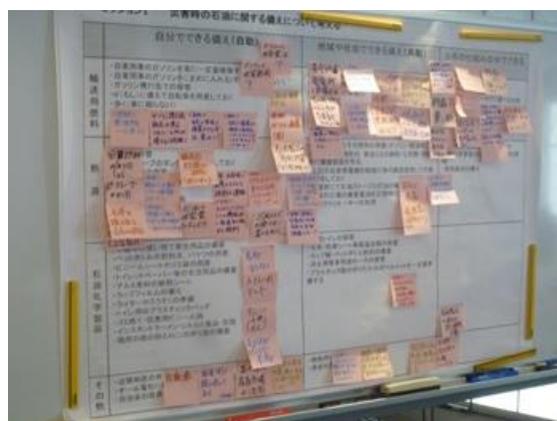
徳島県は、近い将来、発生の可能性があると考えられる「南海トラフ巨大地震」や、吉野川を沿うように走る「中央構造線断層」による地震の発生、また、大雨による河川の氾濫や土砂災害も危惧されている。そのため、防災・減災に対する関心は高く、発災時に備えて防災訓練や講習会など、さまざまな活動が行われている。



今回の意見交換会は、NACS 会員に加えて、学識経験者、防災士や自主防災組織、事業者、行政など、地域で防災に関わる方々にも参加いただいた。このことにより、それぞれの立場からの専門的な意見も出され、防災・減災の視点から石油に関する情報を参加者が共有し、その重要性を改めて認識することができた。

### 【災害時の石油に関する備え】

自助として石油製品を備蓄することは、劣化するために向かず、使用推奨期間を確かめる必要があるとの意見がでた。また、指定数量の5分の1未満の場合、法的規制がかからないので制度を使用したいという意見のほか、備蓄用ガソリン缶詰は高額なので、安く買えるようにできないかという要望があった。更に、備蓄用燃料をSSで引き取ってもらえるかという質問もでた。一方、車のガソリンについては、こまめに給油し、常に満タンにしているとの意見が多かった。



共助では、災害時にSSを一般開放し、備蓄拠点にできないか。そのためには、事前に鍵

を開けられるような内容の協定を結ぶ必要があるといった提案があり、身近な SS は地域の防災活動に欠かせないので、積極的に参加を促したい。

公助については、SS に十分な燃料の確保を求める意見が多く、災害時に本当に使える SS がどこにあるのかとか、貯蔵量と規制、安全な設備レベルの情報を知りたいとの意見もあった。

熱源のほとんどは、自分でできる備えについての意見が多く、災害時に役立つものとして、カセットコンロ・カセットボンベ、固形燃料や薪ストーブの利用。また、普段使わないと思っても、毛布や石油ストーブを保管することの必要性、トイレ用テント、子ども用と大人用のおむつなど、各家庭の事情にあった防災計画を立てることが何よりも重要で、役立つとの意見があった。

### 【石油に関する情報のあり方】

防災ハンドブックに、石油に関する情報がないのは、石油製品の備蓄が困難だからであろう。そもそも、ガイドブックが命の確保を第一に書いてあるので、避難後にそういったものが必要であるといった情報が後回しになっている、とも考えられることなどが指摘された。

また、停電時に営業できる住民拠点 SS の情報を看板で知らせて欲しいといった意見があった。発災時に新たな言葉をつくり、例えば IKSS (入れてくれる SS)、KISS (来たら入れてくれる SS) の SS マップ。つまり、並ばなくても給油してもらえる SS の情報を SNS で発信できたらよいといった意見があった。今や SNS は生活に欠かせないツールとなっており、発災時には、連絡や情報の発信・収集に大きな役割を果たしている。一方、世代に応じた情報提供が求められており、普段から SNS に慣れていない高齢者には、各家庭に配られている市町村の広報紙、公共施設や量販店、病院の掲示板など、見やすい場所へ張り紙をするなどの工夫が必要との声もあった。

緊急地震速報、被害状況の確認などに活用できるラジオを地震に備えておくことが必要で、地域に密着した情報が提供されるため、実用的な情報が収集できるとの意見があった。



### 【その他、質疑応答、意見交換より】

石油連盟から、非常用発電機を装備した各県別住民拠点 SS 設置数 (2019 年 10 月 11 日時点) の説明があり、全国 3,496 か所、徳島県 68 か所であった。その中で、徳島市の設置はなく、どうなっているのかといった疑問の声がでた。また、「満タン&灯油プラス 1 缶運動」について、SS でのノボリ、店頭用ポスターを見たことがない参加者がほとんどなので、

日頃から話題にできる啓発のあり方を考える必要がある。

行政からは、「通れるマップ」（災害時における通行可否情報）の紹介と共に、「道を通れるようにすること」が使命であり、道を開くための重機を動かすには石油（軽油）が必要不可欠であることが強調された。

学識経験者からは、「通れるマップ」同様、車の GPS で SS の渋滞状況がわかるシステム構築について、石油業界が中心となって推進できないかとの要望があった。

報告：西日本支部四国部会

## 補足

徳島における意見交換会は、他地域のパターンと違い、参加者の約半数が多様なステークホルダーで構成された。そこで予め所属ごとに 4 グループに分け、進め方もグループ内で出た意見を代表者が発言する方式を取った。グループ所属構成は以下のとおり。

A 班：消費者／NACS 会員 4 名

B 班：消費者／NACS 会員 4 名

C 班：防災士・地域自主防災会 3 名

D 班：学識経験者 1 名、事業者 1 名、行政 2 名